

幣原喜重郎生誕150年記念事業

実行委員会発足記念講演会

憲法九条は誰が発案したのか

幣原喜重郎と「平野文書」

講師：笠原十九司（都留文科大学名誉教授）

1944年群馬県生まれ。日本の歴史学者。専門は中国近現代史。東京教育大学大学院修士課程中退。東京大学学術博士。都留文科大学名誉教授。笠原氏は平野文書について2018年「世界」6月号で、「平野があえてこの問題で虚偽を述べる蓋然性は乏しく、またここで述べられている内容はきわめて具体的かつ詳細であり、『外交五十年』や後述するマッカーサー証言、またその他の資料との矛盾もないので、一般的な歴史学研究の方法として市民権を得ているオーラルヒストリーによるオーラルドキュメント、つまり『聞き書き資料』あるいは『聴き取り資料』として第一級の価値を持っていることを認めてよいだろう。」と述べている。



日時：2018年9月13日（木）

PM6：30～8：30

（幣原喜重郎生誕146年）

場所：ルミエールホール（門真市民文化会館）

小ホール

参加費：無料

記念事業の趣旨

1872年（明治5年）9月13日に大阪・門真で生まれた幣原喜重郎氏は、戦前に外務大臣等を歴任し、1945年（昭和20年）に戦後初めての首相に任命。その時、日本国憲法の起草にあたって、マッカーサー元帥に「戦争廃棄・武力撤廃」を提言して、9条の成立に尽力しました。

2022年には生誕150年を迎えます。その記念すべき年に、幣原喜重郎の功績等をまとめ、門真のみならず、大阪、全国、世界へ幣原の意思を発信する記念事業を進めていきます。

呼び掛け人：戸田 伸夫
（税理士）

連絡先：門真市幸福町23-13
門真民主センター内

Tel 06-6900-5471
090-4301-6219（戸田携帯）